

主日の福音 2025/4/18(No.1350)

聖金曜日 (ヨハネ 18:1-19:42)

イエスは十字架上ですべてを成し遂げられた



受難の主日の受難の朗読には、ほかに十字架につけられた犯罪人の侮辱の言葉が残されていますが、聖金曜日のヨハネ福音書の受難の朗読では、「また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた」(19・18)とだけあって、犯罪人は登場しません。十字架上のイエスに、より注意を向けさせようとしています。

なぜイエスは十字架から降りないのでしょうか？中田神父なりに、二つ考えました。一つは、すべての人の罪を背負うためです。イエスを裏切った弟子。でっち上げの裁判を開いた指導者たち。死刑に引き渡した人。本当のことを知ろうとせず、「十字架につけろ」と叫ぶ人。また今日の朗読では衣服を剥ぎ取って分け合う兵士たちもいます。すべての人の罪を背負うために、最後まで十字架から降りませんでした。

もう一つ考えたのは、積極的にイエスを十字架につけていない人たちです。宗教指導者や彼らに同調するユダヤ人に加担はしていませんが、意思表示しなかった人、明確に反対しなかった人のためにも、イエスは十字架にとどまったのではないかと考えました。

明確に反対しない人は、当時の人々だけではありません。現代にも繋がっています。私たちはいろんな場面で、反対すべき時に反対せず、態度を曖昧にすることがあります。それは強い言葉を使うなら、卑怯な態度です。当然、卑怯な人も罪人です。

では、罪人は十字架上のイエスのもとにいてはいけないのでしょうか。そうではありません。罪人に「あなたはここにいていいのだよ」と伝えるために、イエスは十字架にはりつけにされた姿でとどまっておられるのです。イエスが罪人の一人に数えられたのは、「あなたはここにいて良いのだ」そう伝えるためではないのでしょうか。

私は3月20日、叙階式ミサの教話で、なぜイエス様は十字架から降りないのか、そのことを受階者のお二人は説教台から、祭壇の上で、告げ知らせてくださいとお願いしました。その答えが、「あなたはここにいていいのだよ」ということなのです。

説教の最後に、イエスが十字架の上で「成し遂げられた」と言われたことにも目を留めましょう。「そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を受けると、『成し遂げられた』と言い、頭を垂れて息を引き取られた。」

(19・29-30) 私たちは頭を下げて、しばらく沈黙のうちに祈りました。

「成し遂げられた」。イエスはこの言葉を最後の晩餐でなく十字架の上で語りました。つまり、すべてが成し遂げられた場所はこの十字架上なのであり、私たちは十字架上から「成し遂げられた」と言われるイエスを、心に納めて家に帰るのです。私たちは出来事の証人なのです。

復活徹夜祭(ルカ 24:1-12)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。